

蜂刺され対策についての一考察

坂下・神坂担当区事務所 宇佐美 茂
神坂造林班 ○西尾 良彦

要 旨

近年、蜂刺されによる被害者の数は全国的規模では、クマ・マムシ等より非常に多く、国有林野事業労働災害統計書によると81年度は264件、内1名死亡、82年度は419件、内3名死亡となっており、安全対策とその指導等が行われているが、現場での蜂の生態を知ることも安全対策の第一歩と考え、その生態を調査し蜂に対する危険予知と作業衣等の工夫によりある程度の成果を得たので発表する。

はじめに

坂下事業区湯舟沢国有林は、恵那山系の南西に面し主に5つの谷から形成され、標高約500～2,200mの間に位置している。

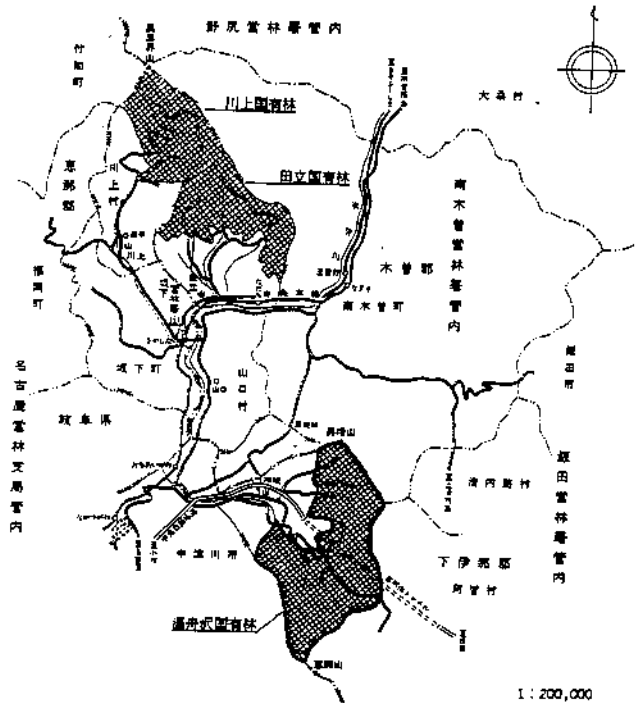


図-1 位置図

造林班構成は7名で、内2名のCランク者がおり、皆蜂刺されの経験者であり蜂に対する関心も高く、こうしたことから経験を生かした職場の中で実行できる蜂対策を考えた。

1 調査の概要

1. 調査項目

調査項目は表-1に示すとおりである。

1はどんな種類の蜂がどんな場所に巣を作るか。

2は営巣の時期、いつ頃働蜂がでるか。

3は蜂に体のどの部分を刺されやすいか。

4は下列の場合、全刈と筋刈での違いはあるか。

2. 調査結果

(1) 蜂の種類と営巣場所の特定

代表的な6種類の蜂の標高(上限)差を図示すると次のとおりである。この図-2で示すとおり、スズメバチ類の上限は約1,100mで、アシナガバチ類の上限は約950mである。

また共通して言えることは、沢付近の凹地で風当たりの少ない日当たりの良い餌等の多い場所に集中して、笹生地にはなかった。

(2) いつ頃刺されやすいか

5月中旬より巣作りを始め、働蜂は7月10日前後に多くなり、8月中旬まで攻撃的になり、被害にあいやすくなる。

(3) 体のどこを刺されやすいか

体の刺されやすい部分を示すと図-3のとおりである。

表-1 調査項目

1	蜂の種類と営巣場所の特定
2	いつ頃刺されやすいか
3	体のどこを刺されやすいか
4	作業種による相違

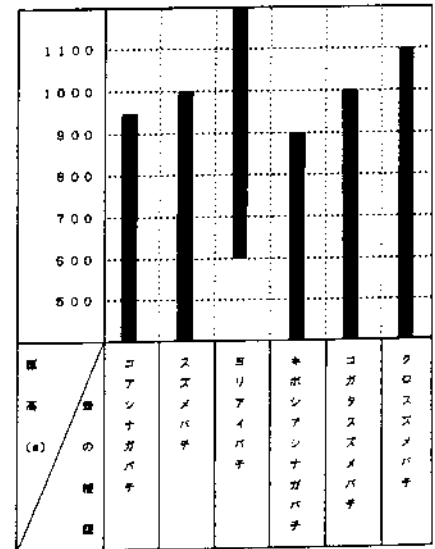


図-2 蜂の種類と標高差による生息分布図

この図が示すとおり下刈作業の場合、体の右側が山手に面するため、右側の肩・腕・手・ももなどが被害にあいやすくなる。

(4) 作業種による相違

筋刈では、筋の残した部分に巣を作るので全刈の場合より、被害にあいやすくなる。



図-3 蜂に刺されやすい部位

表-2 職場で考えた蜂対策

項 目	具 体 的 対 策
危 険 予 知	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 朝のミーティングで場所・蜂の種類等を確認する。 ☆ Cランク者の作業配置について検討する。 ☆ 作業衣等のチェックをする。
下層植生の刈払	雑草木を低く刈る。
作業衣の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 腕めきを二重にして蜂の針が到達しないようにする。 ☆ 肌着をメッシュにして汗等で密着しないようにする。

II 職場で考えた蜂対策

職場の中で考えた蜂対策を表にすると、表-2のとおりである。

1. 危険予知

(1) 場所等がある程度、特定可能なことから、蜂の分布図を掲示し、前のミーティング時に、蜂の種類と営巣場所の予測を行うことにより、蜂刺され危険区域の予知、Cランク者の安全な作業配置を検討する。

(2) 右側の肩・腕・手・ももなどが刺され易いので、作業衣等のチェックをし蜂刺されを防止する。

2. 下層植生の刈払い

笹生地以外は、巣のできそうな雑草木はなるべく低く刈る。

3. 作業衣の工夫

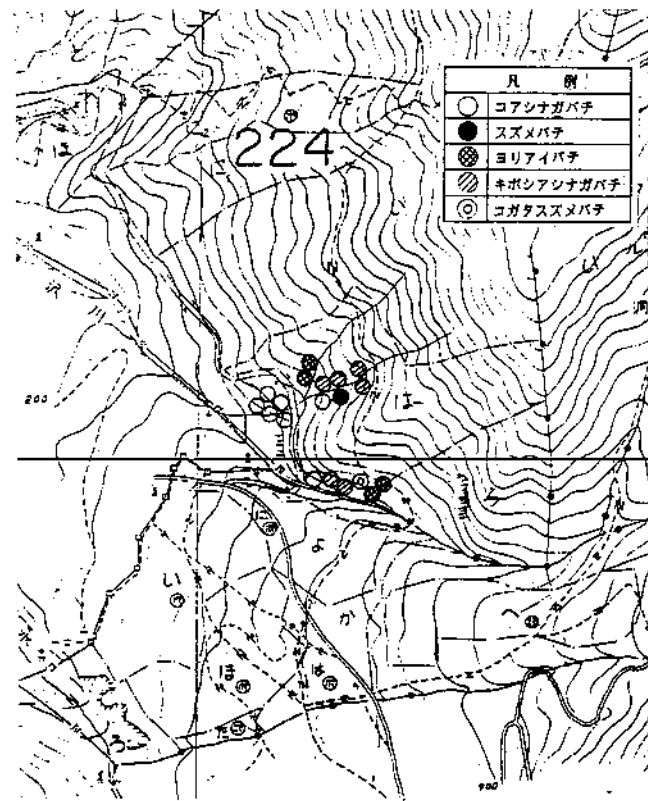


図-4 蜂の分布図